



朱雀の翼

尊重すること



12月は、「世界人権宣言」が採択されてから、世界的規模で、人権月間となっており、柳沢中学校の12月の取組テーマも「尊重」でした。毎年、人権について同じ話を繰り返していますが、人権とは、何だろうか考えるいい機会になってほしいと思います。

「人権」とは、誰もが生まれながらに持っている、「人間として幸せに生きていくための権利」です。わたしたちは、自分の個性や能力を生かして働きたい」「健康で文化的な生活がしたい」など、幸せに暮らすためにさまざまな願いをもっています。そして、その願いがかなうように日々努力をしています。

人にはそれぞれ「違い＝個性」があります。見た目や価値観など、人が違いをもっていることは当たり前のことです。しかし、わたしたちは「自分とは違う他人」にとまどったり、避けてしまったりすることがあるかもしれません。また、多様な「個性」に対する勝手な思い込みや固定観念から、差別や偏見が生まれてしまうことがあるかもしれません。



みなさんは、他者に対して、勝手な思い込みや差別することがありますか？どうでしょうか。わたしたちの考え方や生き方に優劣はありません。

人権を尊重するということは、自分とは違う他人を受け入れ、その他人が幸せに生きていくための権利を大切に扱うということです。このことを1人1人が考え、行動することで、「人権尊重の社会の実現」につながります。

実は、わたしたちの身の回りでも人権問題はたくさん起きています。わたしたちは、無意識のうちに他者の人権を侵しているかもしれません。

1人1人を大切にするということは、その人の立場や考え方を知り、理解しようと努力することでもあります。歩み寄るという発想を大事にできればいいですね。

人権問題を難しく考えずに、まずは、あなたの周りにいる人を大切にすることから始めてみましょう。



種をまこう

種をまこう 種をまこう
こころの中に種をまこう

わたしのこころに あなたのこころ
みんなのこころに 種をまこう

生まれたばかりの
やわらかいこころに
「人権」という名の種をまこう

そして

「思いやり」という名の水と
「愛」という名の栄養を
たっぷりたっぷり
そそいであげよう

みんなの「笑顔」
という名の陽をあびて
きっと 芽が出る 花が咲く

やがて

大きな幸せの実が みのる



集計結果から考えること



数値で見ると多い人数に捉えられますが、同じ人が複数の設問に重複して回答しているので、全校生徒の4分の1くらいの人たちになります。改めてチェックシートを確認して、人権感覚の軌道修正をしてほしいと感じます。

しかしながら、その人たちは全問不正解というわけではなく、少しずつ人権感覚がずれているようなので、今後の成長に期待していきたいです。

全体的には、「人に命令する、八つ当たりをする、ばかにする言動はいけないことだ」と認識しているようで、よかったです。

欠席した人に対して「どうしたのかな」と気にかけない人が8%ということは、中学生の現状といえるのかもしれませんが。

「相手によって態度を変える」「嫌だと思う人とは同じ班でも話さず、無視する」と考えている人が20人以上いることは、残念です。苦手な人に積極的に話すこと、無理をしなくてもいいですが、同じ班で無視をすることは、どうでしょうか。

また、人を傷つける言葉を遣っている人たちも20人以上います。「あおり合い」という悪い言葉合戦をしている人もいそう、なくしたいです。

設問の最後に自分ができることを書いてもらいました。多くの人たちが、自分からあいさつをする、自分が言われて嫌なことは人には言わないと書いていて、感心しました。そのほかに書かれていたことを紹介します。

- ・相手の状況を考える。・言葉遣いに気をつける。
- ・声をかけるようにする。・ほかの人とも向き合い、平等に接するようにする。・舌打ちをしない
- ・相手に失礼なことはしない。・相手を否定しない。（非常識なことは除く）・嫌なことをしたら、謝る。・人に優しくする。・悪口を言わないようにする。・人の意見をきく。・いろいろなボランティアに参加する。・人のことを気にかける。・周りをよくみるようにする。・人が傷つくような言葉を言わない。・自分と違う性格の人にも話しかける。



保谷二小さんからパンジーの苗をいただきました



令和7年度 人権感覚チェックシート集計結果

設 問	1年生	2年生	3年生	全校
1 先生や友達に進んであいさつをしない。	2	0	3	5
2 遅刻や欠席した人のことを気にかけない。	10	6	6	22
3 遅刻や欠席が多い人を「休みすぎだ」「さぼっている」と責める。	4	1	0	5
4 欠席している人の配布物を机の中に入れたり、保管しない。	2	5	1	8
5 グループで行う作業に入りにくそうにしている人に「一緒にやろう」と声をかけない。	5	5	3	13
6 質問に答えられない人や間違えた人を笑ったり「そんなこともできないのか」と言う。	2	0	1	3
7 黒板や掲示物に落書きし、面倒だから、予定黒板には読みにくくても雑な字で書く。	6	1	1	8
8 相手によって、態度を変える。	12	8	6	26
9 授業にあきてしまったときは、周りの人に話しかける。	11	2	2	15
10 人を傷つける言葉や嫌な気持ちにさせる言葉を使う。「死ぬ」「くさい」「うざい」「ばか」など。	9	10	2	21
11 教室移動などの時、他の人に荷物を持たせたり、「物をとってきて」と命令する。	0	0	0	0
12 深く考えないで、人の悪口を言う。	7	2	3	12
13 人が気にしていることや秘密にしていることは人には言う。	2	3	2	7
14 メールやLINEを送るときは、時間帯や相手の状況を考えない。	10	7	3	20
15 メールやLINEで、人の悪口などを言い合うと、盛り上がって楽しい。	1	2	0	3
16 嫌だと思う人とは、同じ班でも話をしない。嫌だから無視をする。	10	3	3	16
17 人の失敗を笑う。からかったり、いじったりする。	9	2	4	15
18 いらいらするので、特定の人に八つ当たりをする。相手も笑っているからいいと思う。	1	1	0	2

(人)

がん教育

副校長 小西 貴也

どんなに歳をとっても自分の健康とは一生付き合っていくことになります。「健康カードの記入」も自分の健康と向き合うために必要な取組の一つです。

12月19日に実施した「がん教育」の目的は、がんに対しての正しい理解と、得た知識を家族に伝え、がんの早期発見・早期治療に繋げることです。

講師には、職場体験でもお世話になった佐々総合病院の名誉院長でもある鈴木隆文先生をお招きし、スライドや手術の映像なども見ながらがんについて学びました。

事前のアンケートで「治らない病気」「こわい」など漠然としたイメージに捉えていた生徒たちも、講演後は、「早期発見で9割が治るので、家族に伝えたい」「最新の医療技術に安心した」などの感想に変容していました。

鈴木名誉院長のお話の中で、中学2年生ががんに対しての正しい知識を得ることも大事であるが、今日習ったことを家族に伝えほしいという言葉が印象的でした。がんに対しての正しい知識を得ることと早期発見に繋げることができれば2人に1人がなる病気とされているが、決して治らない病気ではないということを社会全体に広めていく役割を担ったように感じました。

鈴木先生をはじめ、佐々総合病院のみなさま、お忙しい中ありがとうございました。

